

# 戸建て住宅地におけるコモンスペースの緑の管理によるコミュニティ形成

齊藤 広子 (明海大)

【目的】戸建て住宅地において共同生活を円滑に行い、美しい街なみやよい住環境をつくるには居住者のコミュニティ形成が必要である。そこで本研究では戸建て住宅地のコモンスペースの樹木や草花などの「緑」の管理を通じて、居住者間のコミュニティが形成されるのではないのかという仮説をもとに、戸建て住宅地のコモンスペースの緑の管理の実態とそれを通じて居住者のコミュニティがどのように形成されるのかを明らかにする。

【方法】調査対象は共有空間としてコモンスペースがあり、そこに共有の木があり、それをコモンスペースに隣接する住宅の居住者で共同管理をしている戸建て住宅地とする。調査対象住宅地の居住者を対象に直接訪問配付・留置自記入後、直接回収する方法でアンケート調査を1996年9～11月、1997年11月に実施した。配付数357、回収数345、回収率96.6%である。あわせて緑の管理の状態を把握するための外部観察調査を実施した。

【結果】①コモンスペースの緑の管理の状態は管理方法や木の本数による違いは明確にはみられない。居住者の近隣つきあいの状態による違いがみられ、近隣と親しくつきあっている人が多い場合には良好に管理されていることが多い。②緑の管理・手入れを通じて近隣つきあいに「変化がない」という人も約2割いるが、緑の管理をする近隣の人をみかけたり、挨拶をするといった人は約6割、管理を通じて約2割の人が近隣と「より親しく」なっている。③緑の管理を通じて近隣とコミュニティが形成されている場合には、コモンスペースの緑の管理に今後も積極的に参加していこうという意向が高くなっている。